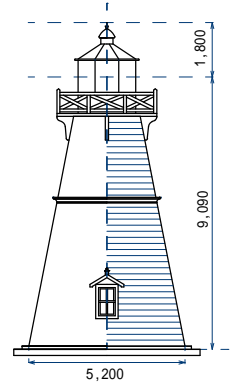
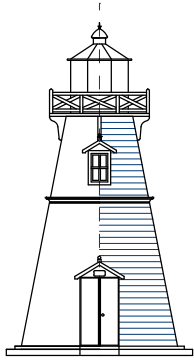


灯台を貼り付ける



四日市燈台 S=1/70

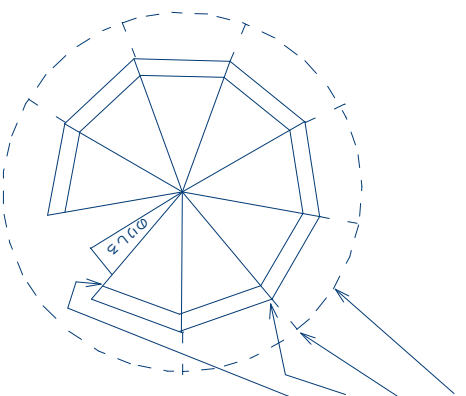
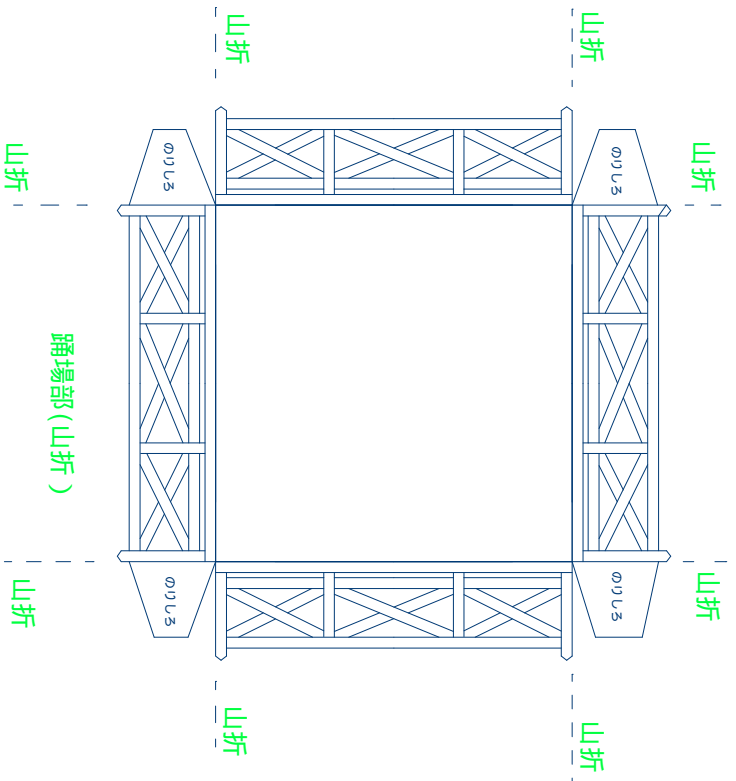
場所：三重県四日市市稲葉町
北緯34.58度、東経136.39度（日本測地系）
構造：木造四角形白色
灯級灯質：六等不動白光
点灯年月日：明治19年8月1日
基礎～灯光：30尺（約9メートル）
平均水面～灯光：47尺（約14メートル）
光達距離：11.5海里（約21キロメートル）
当初光源：石油
光源変更：明治44年3月5日電化（国内初）
廃止年月日：昭和3年2月29日

四日市燈台は、明治19年に逓信省燈台局にて設置され、首員ほか補員が2名配置されました。明治19年頃には全国で燈台は2基程度しか設置されていなかったので、いかに四日市港に燈台設置の需要が高かったが伺えます。

四日市燈台のハリハン（ガラス部分）は八角形が採用され、陸側には3枚暗弧板が張られていました。

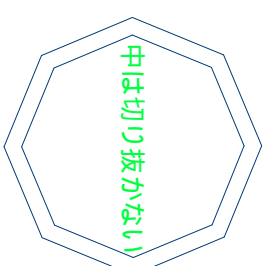
燈塔は、日本古来からある燈明台をイメージしたデザインとなっています。かつて高砂町にあった「大神宮常夜奉燈」という燈明台があったことから、これをモチーフとしたと思われます。「建設費は、該港人の献金による」との記録があることから、地元の要望が取り入れられたものと推察されます。

四日市燈台は、四日市港防波堤燈台が設置されたことを受け、昭和3年に廃止されましたが、四日市港の歴史を語る上で、欠かせない存在であると言えます。

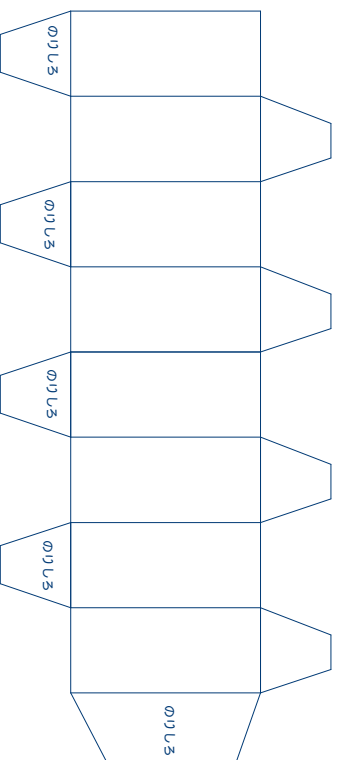


円点線により切り取る
放射線状に折り目を付ける
ひさし部の切り込みを入れる
ひさし部を山折にする
のりしろに糊を付け傘状とする

灯ろう屋根部(山折)

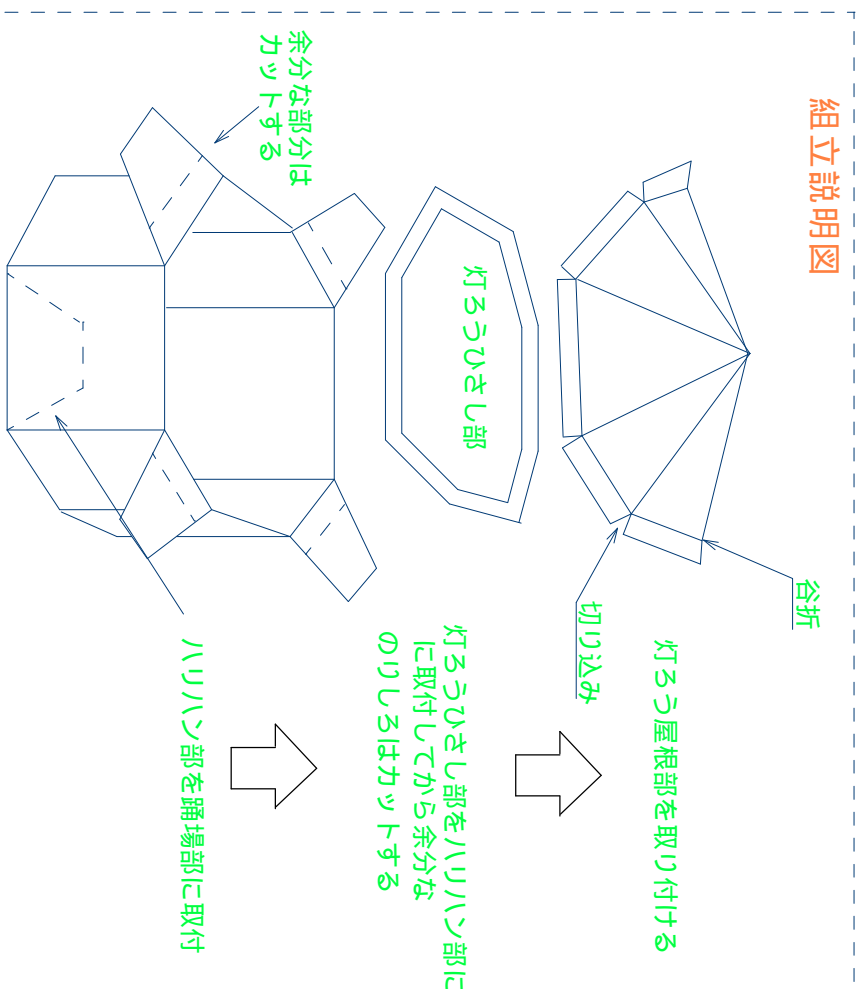


灯ろうひさし部



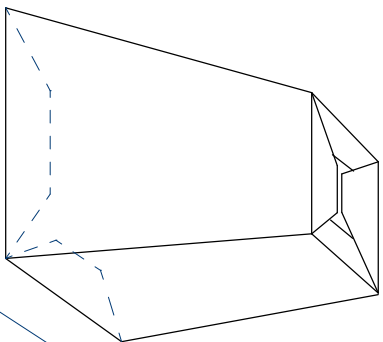
ハリハツ部(上部のりしろは谷折、その他は山折)

組立説明図

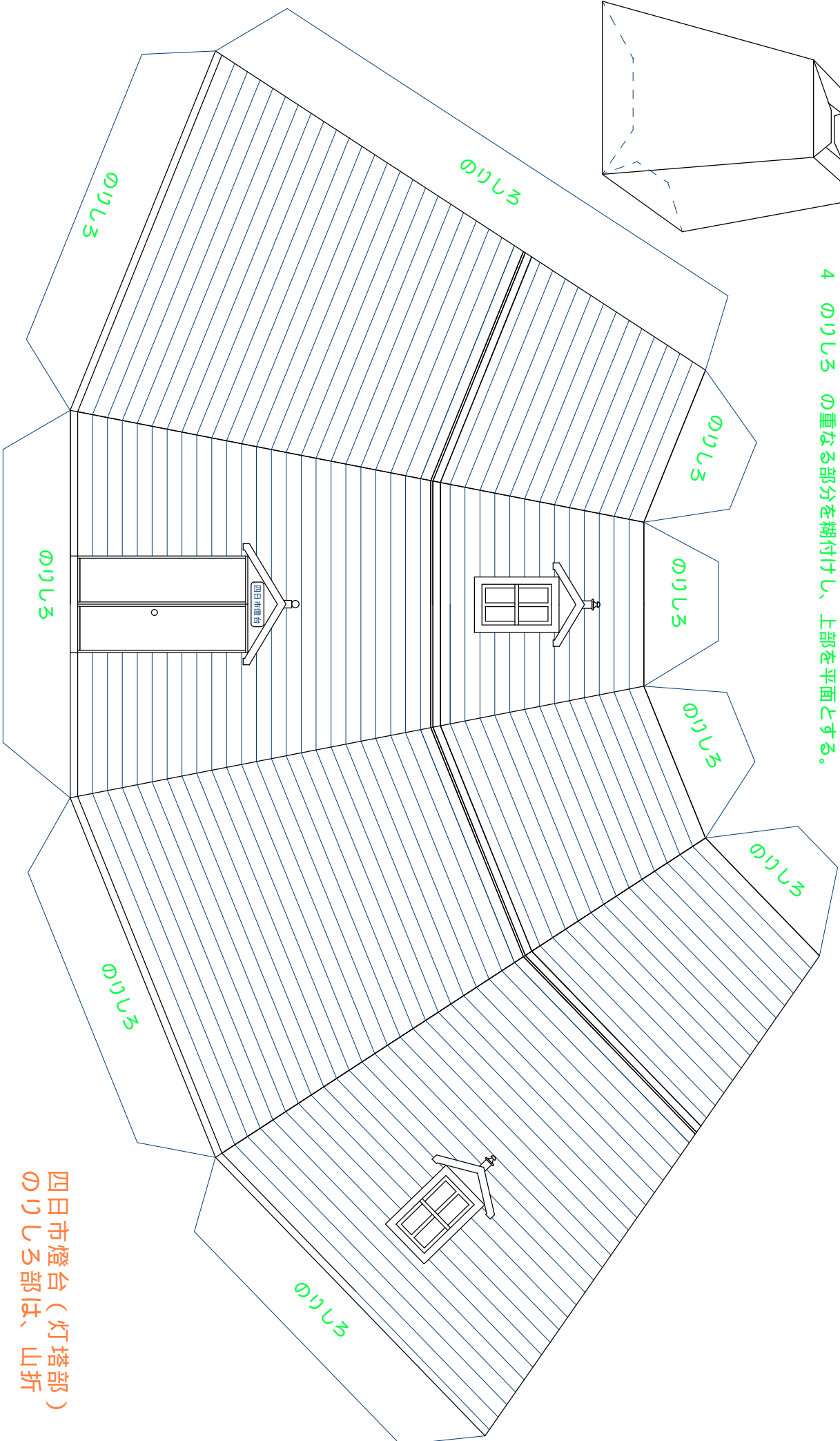


四日市燈台(踊場、灯ろう部)

説明図



- 1 のりしる根元を全て事前に山折する。
- 2 左図のように四角いメガホンを作るように山折する。
- 3 のりしる によりメガホン状とする。
- 4 のりしる の重なる部分を糊付けし、上部を平面とする。



四日市燈台（灯塔部）
のりしる部は、山折